

## 2016年度第3四半期決算説明会 質疑応答

【開催日】 2017年2月2日（木）16:45～17:45

【出席者】 常務執行役員 CFO : 増 一 行  
主計部長 : 蜂谷 由文  
IR 部長 : 武久 裕

### 【質疑応答】

#### ① 業績/経営関連

#### Q. 今年度のフリーキャッシュフローの水準と余剰金の使途。

- A. ● 中経では、3ヶ年の枠組みで、キャッシュ創出額の範囲内で投資と株主還元を実行するよう管理しており、単年度では赤字となることもある。
- 又、フリーキャッシュフローは、社内管理の対象としていない運転資金負担などの要因もある為、予想しづらい面があるが、第4四半期にローソン以外の大きな投資が無ければ黒字となる見込み。
- 株主還元実行後も余剰資金が生じれば、成長領域を中心とした超過リターンが得られる投資と、中期経営戦略2018で掲げた格付けA格上位(Moody'sでの”A2”、S&Pでの”A”以上の格付)維持達成、企業価値向上の為の債務削減に充当する。

#### Q. 当期の配当を70円に増配した背景。来年度以降の配当の考え方。

- A. ● 株主還元については配当を基本とした上で、持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本としている。
- 今回の業績見通しの修正は、主に資源価格の上昇によるものである一方、持続可能な利益である非資源も堅調に推移していることから、増配することとした。
- 来年度以降の増配額については、来年度の利益見通しやその時点での事業環境などを踏まえた上で、持続的な利益成長に合わせて柔軟に決定していく。

#### Q. 自社株買いの考え方。

- A. ● 自社株買いについては、成長投資や配当による株主還元実行後も余剰資金が生じる場合に、追加の成長投資・負債の返済を考慮した上で、判断していく。

#### Q. 中経最終年度の目標に掲げている非資源事業の純利益2,800億円に向けた手ごたえ。

- A. ● 船舶での大型損失を計上したものの、計画比では全体として堅調に推移しており、稼ぐ力は着実に高まっている。

#### Q. 第3四半期に発生した一過性損益。

- A. ● 機械グループに於いて船舶事業の減損が約▲260億円発生した他、化学品グループでも約▲20億円の一過性損失が発生。一方、一過性利益としては、生活産業グループでは食肉関連事業での株式等交換益が約50億円、エネルギー事業グループでは株式売却益が約70億円、有償減資による為替差益約40億円などが発生している。

**Q. 第3四半期時点で3,715億円の利益を計上しているのに対し、第4四半期見通しが685億円に留まっている理由。**

- A. ● ローソン子会社化に伴う評価益などを見込む一方で、主に資源において中経に基づく資産入替に伴う損失懸念を見込んでいるため。

② 個別事業関連

**Q. 第4四半期のエネルギー事業グループ業績見通しが赤字の背景。**

- A. ● 中経の戦略に基づき、資源ポートフォリオの競争力強化を目的とした優良資産への入替を実施する予定であり、それに伴う損失懸念を見込んでいるため。

**Q. MDP事業のコスト削減状況。**

- A. ● コスト削減は引き続き進捗しており、自助努力によるコスト削減含め、前年同期比で約300億円改善している。
- 但し、市況上昇によるロイヤリティ支払増、円豪為替に於ける円高進行の影響により、コスト削減効果が相殺され、数量・コスト要因の増減は、前年同期比▲14億円になった。
- BMAでは、一過性のコスト削減に留まらず、操業効率化に資する施策を通して、低コスト操業を継続的に可能とするべく取り組んでいる。ピーク時の2011年度と比べ、約4割のコスト削減を実施しており、更なる抜本的なコスト削減は容易では無いと考えているが、引き続き、もう一段のコスト削減や生産性向上の取り組みを継続していく。

**Q. 鮭鱒養殖事業が好調だった要因と今後の見通し。**

- A. ● セルマックの第3四半期持分損益累計は、相場の高止まり及び生産コストの削減により約179億円となった。
- 中期的には、安定的に150～200億円/年程度の持分利益が稼げるよう経営努力を重ねて行く。

以 上